

講義名	NPO論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	森脇 丈子		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4時限		
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 / 2018年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2018年度 経済学部 経済情報学科 / 2018年度 経済学部 経済学科 / 2018年度 商学部 マーケティング学科 / 2018年度 商学部 経営学科 / 2017年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2017年度 人間社会学部 観光学科 / 2017年度 人間社会学部 人間社会学科 / 2017年度 経済学部 経済情報学科 / 2017年度 経済学部 経済学科 /		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	24080

主題と概要

特定非営利活動促進法が成立（1998年）して20年以上が経過し、非営利組織の存在は市民生活にかなり浸透してきています。また、行政や企業との協働といった形もあちこちで見られるようになってきています。非営利の組織は、学校や福祉、街づくりといった分野にとどまらず、環境や国際協力、文化・芸術の分野にも存在しています。これらの組織は民間企業や行政では取り組めない領域をカバーし、市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創りだしてきているという面においても注目されています。とりわけ、急速な高齢化と人口減少が進む日本社会では、社会における相互の共同がいままで以上に求められているともいえます。

この授業では、国内的もしくは国際的に活躍するNPOの具体的な活動をとりあげながら、NPOの役割と実際の成果、現状での課題と今後の発展可能性などについて、考えていきます。また、社会的企業についても紹介していきます。また、毎回の講義の中で受講生と議論をおこないます。

到達目標

1. 非営利組織にはさまざまな形があることを理解します。
2. 非営利組織と企業との違いについて理解します。
3. 非営利組織の運営（活動内容、資金、規模など）について理解します。
4. 非営利組織の今後の発展可能性および課題について考えます。

提出課題

なし。

授業のなかでしばしば宿題を出します。次週の授業に向けて、自分の考えをまとめておいてください。口頭で発表してもらいます。

評価の基準

授業での発言および態度（30%）、定期試験（70%）による総合評価をおこないます。

なお、履修者数によって、評価方法を修正する場合があります。

履修にあたっての注意・助言他

授業中に、学生に質問を出して発言を求めます。

新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。授業中の私語・スマホの利用、教室への勝手な出入りを禁止します。

教科書

・「使用しない」。

プリント資料及び参考文献

授業の出席者には、プリント、新聞記事を適宜配布します。

参考文献

- ・小暮真久『20代からはじめる社会貢献』、PHP新書、2011年
- ・渡辺由美子『子どもの貧困』2018年、水曜社
- ・池上正樹『ルボ ひきこもり未満 レールから外れた人たち』2018年、集英社新書
- ・大原悦子『フードバンクという挑戦 貧困と飽食の間で』2008年、岩波書店

授業計画

- 1 授業の内容紹介と授業の進め方について、日本のNPOの現状について
- 2 給食活動のNPO：インド
- 3 アフリカの鉱物資源と貧困
- 4 児童労働
- 5 国境なき医師団
- 6 マラソンを通しての支援活動、地雷撤去
- 7 フェアトレード
- 8 フードバンク
- 9 社会的企業：TFT
- 10 社会的企業：とくし丸
- 11 公益財団法人：スワンベーカー
- 12 「効果的な利他主義」とは何か
- 13 日本のNPOの活動状況：マネジメント、資金・寄付・運営、企業や行政との「協働」
- 14 投資家の新しい動き：ESG
- 15 非営利組織の課題と今後の発展の可能性、まとめ

予習・復習

毎回の講義終了時に、次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。

その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。口頭で答えられるよう準備しておいてください。

備考

第1回目の授業ガイダンスに必ず出席してください。

授業中の携帯やスマホの利用、私語、教室への勝手な出入りは禁止します。

授業態度の悪い人には退室を求めることがあります。